

2016年度 事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 「第32回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する地方大会と、決勝大会を後援しました。

1985年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートし、毎年約15万人の選手、指導者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、オリンピックの代表選手が数多く誕生しており、2016年開催のリオデジャネイロオリンピックにおいても、男子4×100mリレーで銀メダルを獲得した飯塚翔太選手、山縣亮太選手の2名も、過去の本大会出場者となります。

本大会は、小学生アスリートとともに歩み、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着しており、日本陸上競技界の底辺の拡大に大きく寄与していると高く評価されています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 ① 地方大会 2016年6月～7月
② 決勝大会 2016年8月19日(金)～20日(土)

【場所】 ① 地方大会 47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人(選手、指導者、関係者)

【大会内容】 47都道府県の地方大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。

決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80mハードル走、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレーなど

が実施され、その模様はNHK 教育テレビ (E テレ) にて全国放送されました。

【事業費】 106,220,562 円

(2) 「第19回全国小学生クロスカンントリーリレー研修大会」の事業後援

発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカンントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

1999年からスタートしました本大会から、2012年開催のロンドンオリンピックには佐藤悠基選手が、2016年開催のリオデジャネイロオリンピックには鈴木亜由子選手が長距離の代表として出場しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 2016年12月10日(土)～11日(日)

【場所】 池田市民文化会館(大阪府)、万博記念公園内特設コース(大阪府吹田市)

【参加者数】 818人(一般タイムトライアル参加者も含む)

【研修内容】 ・小学生の練習によるからだへの負担について
・ジュニアアスリートの食事の基本、貧血対処7か条について
・発育発達に応じた、さまざまな運動をすることの大切さについて

【大会内容】 ・クロスカンントリーリレー(1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー)
・友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 19,104,767 円

(3) 「全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会」の実施

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育・発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第32回全国小学生陸上競技交流大会で優秀な成績をおさめた選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 2016年10月29日(土)～30日(日)

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 選手・指導者 計34名

【ゲスト講師】 海老原 有希 氏(女子やり投選手)
日本陸連 大畑 好美 氏(栄養研修会担当)

【研修内容】 体力測定、栄養研修会、トップアスリートを迎えてのディスカッション

【事業費】 第32回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 2016年8月20日(土)

【事業費】 第32回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を、2015年9月にスタートしました。

オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満16歳以上の実業団に属していない個人を対象とし、旅費、遠征費、海外居住費等を助成します。

本プロジェクトでは、世界のトップ選手が集う環境の下、大きな刺激を受けながら、互いに切磋琢磨し、海外のメダリストを育てたコーチに教えを乞い、最新鋭の設備の中で、練習に励みます。海外での大きな経験が、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、オリンピックでのメダル獲得へとつながると期待しています。

2016年8月に開催されたりオデジャネイロ・オリンピック日本代表選手の桐生祥秀選手（東洋大）は、同じく日本代表選手のウォルシュ・ジュリアン選手（東洋大）とともに、2016年3月にアメリカのテキサス州ベイラー大学にて武者修行を行い、2015年北京世界陸上の男子100m銅メダリストのトレイボン・ブロメル選手を指導したフォードコーチから直接指導を受けました。

また、オリンピック直前の2016年7月には、ヨーロッパ遠征を行い、海外の試合勘を高めるなど、本プロジェクトを有効に活用し、男子4×100mリレー銀メダル獲得の快挙を達成しました。

【支援内容】

- ① 海外長期活動支援 海外大会の転戦、海外大学への進学、留学など
- ② 海外短期活動支援 長期休暇を利用した1～3ヶ月程度の海外合宿、短期留学など

【2016年度支援対象者】

- ① 海外長期活動支援（1名） （年齢は活動開始時）

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
戸邊 直人	24歳	走高跳	2016年8月23日～9月15日 2017年1月20日～2月15日	51日	エストニア

※故障による活動計画の変更に伴い、海外での活動期間が短縮となりました。

※国際陸連主催のダイヤモンドリーグ（2試合）、インドアミーティング（2試合）に出場しました。

- ② 海外短期活動支援（11名） ※高校、大学の春季休暇を利用して行う活動

- 2016年7月～8月 （年齢は活動開始時）

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
桐生 祥秀	20歳	短距離	2016年7月12日～20日	9日	オランダ
ウォルシュ・ジュリアン	19歳	短距離	2016年7月12日～20日	9日	オランダ
岩本 武	19歳	短距離	2016年7月26日～8月15日	21日	ベルギー

※海外短期活動支援に選考された北口 榛花選手は故障のため、北川貴理選手は直前にリオデジャネイロ・オリンピック日本代表に選出されたため支援を辞退しました。

※桐生祥秀選手、ウォルシュ・ジュリアン選手は9月開催予定の試合が中止になったため活動期間が短縮となりました。

- 2016年12月～2017年4月 （年齢は活動開始時）

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
江島 雅紀	17歳	棒高跳	2016年12月10日～18日 2017年1月9日～24日	25日	フィンランド
池川 博史	18歳	やり投	2017年1月21日～2月27日 2017年3月4日～20日	55日	ドイツ フィンランド

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
佐久間 滉大	21歳	走幅跳	2017年 2月 1日～3月 6日	34日	アメリカ
關 颯人	19歳	長距離	2017年 2月 7日～4月 2日	54日	アメリカ
田上 駿	19歳	十種競技	2017年 1月 28日～2月 28日 2017年 3月 4日～3月 28日	57日	ドイツ アメリカ
佐藤 凌	22歳	走高跳	2017年 3月 1日～4月 2日	33日	オーストラリア
川崎 和也	24歳	十種競技	2017年 3月 4日～3月 28日	25日	アメリカ
阪口 竜平	19歳	中距離	2017年 2月 7日～4月 2日	54日	アメリカ

【事業費】 17,690,144円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2016年度は、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。国内開催の国際大会や、全国大会をはじめとする主要な大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニアキャンプ、トップジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

- 【参加者数】・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 111名（年21回開催）
・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 61名（年代別に計3回開催）
・海外遠征・合宿 選手・指導者 40名（全米オープンジュニア大会を含む14回）

【事業費】 16,200,000円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010年5月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成、指導者の養成を行い、アウトドア活動の普及を図りました。

1. 「第15回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数209件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図っています。

なお、今回助成した団体の活動には、延べ約24,000人が参加しました。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：宇城市立青海小学校（熊本県）

企画名：ふるさとを愛し、豊かな心を育む体験活動

～サトウキビ栽培から黒砂糖作りまでの全過程の取組を通して～

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：大崎市立大貫小学校（委託：特定非営利活動法人 田んぼ）（宮城県）

企画名：田んぼプロジェクト

～田んぼの生物多様性を中心とした環境教育と稲作文化を中心とした体験教育～

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：特定非営利活動法人 京都子どもセンター（京都府）

企画名：無人島1週間チャレンジキャンプ2016

優秀賞（副賞：50万円）

団体名：（独）国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家（石川県）

企画名：石川縦断キャンプ「ACTIVE2016」

◆ 推奨モデル特別賞（学校・一般部門共通）（副賞：各30万円）

自然体験活動のプランニングや指導方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈しました。

① 団体名：横浜市立いずみ野小学校（神奈川県）

企画名：いずみ野小地産地消プロジェクト

② 団体名：浜松市立庄内小学校第6学年（静岡県）

企画名：豊かな浜名湖を未来に受け継ごう ～浜名湖の秘密～

③ 団体名：一般社団法人 若狭路活性化研究所（福井県）

企画名：若狭路わくわくキッズパラダイス 夏の陣 常神半島 海っ子合宿

④ 団体名：熊本県立青少年の家

（指定管理者：ひとづくりくまもとネット・三勢共同体）（熊本県）

企画名：菊池川アドベンチャー「K キャンプ」

◆ トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）（副賞：20万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

団体名：京都市立修学院中学校 ワンダーフォーゲル部（京都府）

企画名：ふるさとの山に「僕たちの道」をつくる

◆ 努力賞（学校・一般部門共通）（副賞：10万円）【新設】

① 団体名：京都市立朱雀第三小学校（京都府）

企画名：「生命と人の温もりを感じよう！」～豊かな土と海、そして多くの人々から ぼくたちは学ぶ～

② 団体名：京都市立藤森中学校 ワンダーフォーゲル部（京都府）

企画名：2016年度 夏合宿 槍ヶ岳登頂 ～そして溪流釣り、シャワークライミング、ロッククライミングへ～

- ③ 団体名：大阪市立新北島中学校 科学部（大阪府）
企画名：都市部の自然環境について自分たちで観察、調査、分析、活動する！
- ④ 団体名：日本ボーイスカウト神奈川連盟 横浜地区（神奈川県）
企画名：第5回横浜地区キャンポリー
- ⑤ 団体名：馬入水辺の楽校の会（神奈川県）
企画名：馬入水辺の楽校及び地域の自然環境の保全と主に子ども達を対象にした環境教育活動の推進
- ⑥ 団体名：「アドベンチャーキッズスクール」実行委員会（大阪府）
企画名：通年型自然体験プログラム 子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」
- ⑦ 団体名：特定非営利活動法人 すいた体験活動クラブ（大阪府）
企画名：体験型環境学習支援事業 児童たちが校庭の一角で取り組む「環境学習」を支援する活動

【表彰式】 開催日：2017年1月28日(土) 安藤百福発明記念館 5階ホール
 来賓：土肥 克己氏（文部科学省 生涯学習政策局 青少年教育課長）
 田中 博章氏（横浜市 こども青少年局長）
 岡田 優子氏（横浜市教育委員会 教育長）
 トークショー：「自然の中で育む子どもたち」
 今井 通子氏（登山家・医学博士）
 近藤 謙司氏（日本山岳ガイド協会認定国際山岳ガイド）

【事業費】 14,386,980円

2. 自然体験活動指導者養成事業（安藤百福センター事業）

安藤百福センターを拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成や、自然体験活動を推進するさまざまな活動を通して、日本における自然体験活動の中心的な役割を果たし、アウトドア活動の普及、推進に努めました。

（1）指導者養成事業（自然体験活動振興事業）

【事業内容】

- ・自然体験活動における人材育成、指導者養成事業
- ・自然体験活動およびアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業
- ・大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習
- ・自然体験活動に係わる企業研修をはじめとする各種研修事業
- ・指導カリキュラムの研究・開発、紀要の発刊

【2016年度 主な事業】

①「第6回浅間大学院生セミナー」の主催

幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義の情報を交換するなど、相互に研鑽、発展を図ることを目的に、各大学教員による講義、学生による研究発表、野外体験活動などを実施しました。

今回も分野を超えた交流を求めて、大学院生8名、教員4名他の計18名が集い、議論を行う意義が再確認され、環境への関心を共有する本セミナー参加者が日本の自然体験活動をリードしていくことを期待しています。

② 指導者養成のための研修会の共催

公益社団法人日本山岳ガイド協会が主催する自然ガイドのための安全管理技術研修会（年2回開催）と、公益社団法人日本山岳会が主催する登山教室指導者養成講習会を共催しました。

③ 自然学校職員研修会の主催

新入職員対象および中堅職員を対象とした研修会を開催しました。

【事業費】 143,172,735 円

(2) ロングトレイルの普及、振興

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林やキャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩く」ことが基本であると考えています。

また、健康と自然志向をベースとしたライフスタイルへの関心が高まる中、全国各地に「歩く旅」の受け皿となるロングトレイルの整備や計画が進んでいます。現在、全国各地に、ロングトレイルコースとして総距離 2,000 kmが設置され、2020年には総距離 5,000 kmを整備することを目標としています。

これらのロングトレイルは、自然環境の適正利用による観光活性化や、地域社会への貢献を目的のひとつとしていますが、現状、国民的な理解や道標整備をはじめ、地域観光として、青少年教育の有効なフィールドとしてロングトレイルを普及、発展させることが課題であり、トレイルを一層発展させるためのシステムづくりや人材の育成が必要不可欠となっています。

そこで、当財団は、独自に5コース（全長40km）の浅間・八ヶ岳パノラマトレイル（旧 安藤百福センタートレイル）を運営、管理するとともに、NPO法人 日本ロングトレイル協会と連携し、自然とふれあう機会を創造するため、ロングトレイルの普及、振興を図りました。

① ロングトレイルの普及・振興活動

- ・全国のトレイル運営機関、諸団体への情報提供と交流促進
- ・全国のトレイルに関する広報活動およびトレイルを活用した観光促進
- ・道標、地図等の整備・トレイル運用基準の検討
- ・トレイルを活用した青少年健全育成や生涯スポーツ促進

② 「第4回ロングトレイルシンポジウム」の共催

開催日 : 2017年2月25日(土)

参加者数 : 約140名

後援 : 環境省、観光庁、長野県、一般財団法人全国山の日協議会 他

来賓 : 長野県知事 阿部 守一 氏

記念講演 : 「安藤財団がロングトレイルを支援する理由」

公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団 安藤 宏基 理事長

鼎談 : 「信仰の道と現代のロングトレイルを語る」

比叡山延暦寺 千日回峰行者 大阿闍梨 藤波 源信 氏

NPO法人 信越トレイルクラブ 代表理事 小山 邦武 氏

NPO法人 日本ロングトレイル協会 会長 節田 重節 氏

(コーディネーター: 山と溪谷社 編集者 神長 幹雄 氏)

講演1 : 「全国の自然歩道について」

環境省 自然環境局 自然環境計画課長 奥田 直久 氏

講演2 : 「ダイヤモンドトレールを軸とした地域の連携と魅力発信」
大阪府 南河内農と緑の総合事務所 地域政策室長 赤井 俊夫 氏

講演3 : 「国内初開催！ワールドトレイルズカンファレンスの報告」
鳥取県 中部総合事務所 地域振興局
ワールドトレイルズカンファレンス室長 高務 裕子 氏

ワークショップ：「ロングトレイルのつくり方」（2月26日開催、参加者約30名）

③ 8月11日「山の日」制定関連事業

2016年8月11日が「山の日」として祝日となりました。当財団も一般財団法人全国山の日協議会と連携し、スマート山岳道標の設置や道標デザインの統一化など山岳安全対策を支援しています。今後も、豊かな自然を守り、安心してアウトドアを楽しめる山岳安全対策に取り組んでまいります。

また、8月11日、「山の日」制定記念イベント「みんなでダイヤモンド浅間を見に行こう！」を開催し、43名の参加がありました。あわせて、11月には36名が参加し、「みんなでパール浅間を見に行こう！」も開催しました。

④ その他主催・共催事業

- ・トレッキング講座（主催／年3回開催）
- ・ロングトレイルハイカー入門講座 他（共催／年8回開催）

【事業費】 (1) 指導者養成事業（自然体験活動振興事業）を含む

(3) 小諸ツリーハウス プロジェクトの推進

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも、「アート」をフックにして、豊かな自然にふれあってもらうことを目的に、著名なデザイナーや建築家がデザインした既存の枠にとらわれない自由な発想のツリーハウスを7棟展示し、自然体験活動の更なる普及と底辺の拡大を図りました。

また、春の「自然で楽しむアートフェス」、秋の「信州の収穫祭」と年2回、さまざまなアートやアウトドア料理のワークショップを体験できるツリーハウスイベントを開催しました。信州の旬なものを味わえる飲食ブースやアーティストによる野外音楽ライブなど、「アート・アウトドア・食」が満喫できるイベントであり、春・秋とも約1,000名が参加しました。

【事業費】 (1) 指導者養成事業（自然体験活動振興事業）を含む

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,503,437円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第21回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、2006年度に新設された発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

2016年度より、小泉純一郎 元 内閣総理大臣を食創会会長に迎え、事業の活性化を図ります。

【後 援】 文部科学省

【表 彰 者】 ● 優秀賞（副賞：各200万円）

・立花 宏文 氏（九州大学大学院 農学研究院 主幹教授）

「緑茶カテキン受容体の基礎研究」

・長岡 利 氏（岐阜大学 応用生物科学部 シニア教授・教授）

「コレステロール代謝を改善する食品成分に関する基礎研究」

● 発明発見奨励賞（副賞：各100万円）

・風間 北斗 氏（理化学研究所 脳科学総合研究センター チームリーダー）

「モデル動物における食べ物の匂い認識を支える脳内メカニズムの研究」

・竹内 豊 氏（株式会社フードケア 代表取締役）

「医療・介護現場の声から生まれたお粥のゼリーの素『スベラカーゼ』の開発と普及」

・福田 真嗣 氏（慶應義塾大学 先端生命科学研究所 特任准教授、

株式会社メタジェン 代表取締役社長 CEO）

「腸内環境の最先端研究と腸内デザイン推進ベンチャーの起業」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日 : 2017年3月13日(月) ホテルニューオータニ（東京）

来 賓 : 山本 有二 農林水産大臣

特 別 講 演 : 「これからの日本」

小泉 純一郎 氏（元 内閣総理大臣、食創会 会長）

受賞記念講演 : 「緑茶カテキン受容体の基礎研究」

立花 宏文 氏（九州大学大学院 農学研究院 主幹教授）

「コレステロール代謝を改善する食品成分に関する基礎研究」

長岡 利 氏（岐阜大学 応用生物科学部 シニア教授・教授）

【研究助成】 2015年度食創会において、第20回を記念して、2015年度受賞者の中から、さらに研究・開発の進展が期待される研究・開発者を対象に、研究助成を行うことが決議されており、当該研究・開発者に研究助成を実施しました。

【事業費】 42,368,829円

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なものは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

1. インスタントラーメン発明記念館（以下「池田記念館」）の運営

池田記念館は、1999年11月にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。2004年11月、展示内容と体験工房を充実させる拡張新築を行い、2015年3月、来館者増に対応するため、施設の拡充を目的とした第3期拡張工事を行いました。

2016年度の来館者は76万人を超え、開館以来の累計来館者は730万人を突破しました。インバウンドによる来館者増のほか、総合学習や修学旅行など学校教育の場としての利用があり、2016年度は819校、約37,300人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいています。

【施設概要】	所在地	大阪府池田市満寿美町8番25号
	敷地面積	4,172 m ²
	延床面積	3,423 m ²
【来館者数】	2016年度来館者数	766,000人（累計来館者数 7,378,000人）
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	56,000人
	マイカップヌードルファクトリー	527,000食
【事業費】	179,316,810円	

2. 安藤百福発明記念館（以下「横浜記念館」）の運営

横浜記念館は、2011年9月、横浜市みなとみらいに開館しました。「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。

発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなど、子どもたちに伝えています。

2016年度は1,583校、約71,000人の学校団体の利用がありました。

【施設概要】	所在地	横浜市中区新港2丁目3番4号
	敷地面積	4,000 m ²
	延床面積	9,883 m ²
【来館者数】	2016年度来館者数	1,078,000人（累計来館者数 5,787,000人）
【体験者数】	チキンラーメンファクトリー	91,000人
	マイカップヌードルファクトリー	830,000食
	カップヌードルパーク	98,000人
	ワールド麺ロード	443,000食
【事業費】	491,592,395円	

■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2017」(主催：スポーツ庁他) の支援

「持続可能なスポーツ環境の創出に向けて」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2017ー人・スポーツ・未来ー」に協賛しました。

【開催日】 2017年2月3日(金) 仙台サンプラザホール(宮城県仙台市)

【協賛金】 500,000円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館(池田記念館、横浜記念館)の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。また、池田記念館においては、物販業務を受託しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m² (館全体の延床面積に占める割合：約9%)

② 横浜記念館 115 m² (館全体の延床面積に占める割合：約1%)

【事業費】 37,330,057円

以上